

様式2

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

1	委員会名	(平成26年度)第1回 安曇野市農業農村振興計画推進委員会
2	日時	平成26年8月5日(火) 午後2時00分から午後4時20分まで
3	会場	三郷公民館 2階 講義室
4	出席者	佐藤委員長、板花副委員長、浅川委員、池上委員、久保田委員、鈴木委員 丸山(秀)委員、三澤委員、鶴見委員、一志委員、深澤委員、河村委員、渡辺委員 帯刀委員、白澤委員、二木委員
5	市側出席者	山田部長、曾山課長、平川局長、鶴見課長補佐、宮澤課長補佐、上野課長補佐 丸山課長補佐、小川係長、太谷課長補佐、太竹課長補佐、等々力課長補佐 奈良澤係長、高橋係長、百瀬係長、樽沼再生協次長、沖係長、土屋主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成26年8月18日

協議事項等

1 会議の概要

(1) 開 会 (曾山課長)

・委員の委嘱 役職等の変更により、次の2名の方に委嘱。

「農業再生協議会米穀類生産振興部会長」→「鶴見 武敏」様、「市教育指導員」→「二木 治樹」様

(2) あいさつ (佐藤委員長) (山田部長)

(3) 協議事項

・平成25年度 取組状況の点検・評価、提言[意見交換]

(4) その他

・今後の日程について

(5) 閉 会 (曾山課長)

2 協議事項

【1 農業で稼ぐ】

◎1-1 経営基盤の見直し

(委員)

農協の籾の乾燥機受け入れについて、農繁期に、農協で1～2時間待っているという不合理で、車が20～30台とつながっている。この期間は1週間と短い期間なので、意見としてここに出させてもらった。

(事務局)

農協の籾の乾燥機の台数を増やしてほしいという事だが、受け入れのピーク時の調整ができていないのか事情があると思う。農協と協議し、増設が必要なら、国や県の補助事業等を活用していかなければならない。

(委員)

五ヶ用水だが、これは明科の川西地区という事で内川先端から南陸郷の末まで流れていて水田用に使われている。下流の受益者が負担して、上流の方はほとんど水管理手当を出さないという、江戸時代の流れがそのまま現在につながっている。平等にしてほしい。

(事務局)

五ヶ用水の水利費を平等にしてほしいという事について、難しいと思うが、検討はする。

(委員長)

次回までにまとめてもらい、計画の中にどう位置づけるかも考えていきたい。

(委員)

アドバイザー制度の現況はどうなっているのか？

(事務局)

アドバイザー制度の詳細な内容について、地域別の相談件数で豊科・穂高・堀金が多い。作物別の相談件数は、水稲・玉ねぎ・トマトの件数が多い。昨年スタートした事業だが、962件の相談件数で、数字的にはまずまずの滑り出しであると評価し、26年度も引き続き対応する。

(委員長)

アドバイザー制度は、基本計画の中でも有意義な事業で、当時から注目されていた。まずは積極的な制度ができたと思う。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

◎1-2 ブランド力の強化

(委員)

「あづみ野わさび」の名を広く知らせる件について、今まで「穂高わさび」ということでやっていたが、合併により産地が明科・豊科も入ったので、「あづみ野わさび」というブランドにしたい。市や商工会と相談し、アドバイスを受けながら取得に向けていきたい。

(委員長)

はっきりと「安曇野」でできたわさびということなので、市民に知らせていかなくてはならない。

【部門別方針】

(委員)

積極的に直売所の宣伝をした方がよい。消費者にあまり行き渡っていない。

(事務局)

直売所における宣伝について、一番効果的なのが、レジ店頭でのチラシ配布を行うことである。また、市内直売所でやっている、直売所のスタンプラリーを実施している。

(委員長)

ご意見は、受け止めて参考にさせていただく。

(委員)

産直センターの有効活用について、6月に学校給食で私達が作ったお米を出させてもらった。その後のケアで問い合わせ先を、産直センターを使ったらいいのかなと思った。各直売所で、風さやかかの売上げが伸びないという事なら、産直センターをうまく使ったらどうか。

(委員長)

これも積極的なご意見という事で承りたい。

(委員)

11月に県のわさび品評会が開催されるので、マスコミへのPRをすすめていく。

(事務局)

農産物のマスコミPRについて、わさびだけでなく、他のお米やそ菜に関しても、品評会ができればという事で調整をすすめている。マスコミ対応は大事。

(委員)

現在、田んぼに水を入れて地下水保全を行っているが、水路の一部を石積みに変えて、モデル的にホテルの水路として行ったらどうか。

(事務局)

農業用水路の一部石積みにしたホテル水路の考案について、農業用水路は、漏水や老朽化があってはいけないため、コンクリート水路にし、それらを防ぐ。

(委員)

現実的に農業をしている立場から、用水路は水が保たれた方がいいので石積みは厳しいが、私のように、田んぼの一部をビオトープみたいにして減農薬でやっていけば何とかできるのではないかと思う。それをきっかけにお米の販売にもつながるのでは。

(委員長)

広範囲に可能性を求めていこうという意見である。観光の方にも課題があるかもしれない。これもどういう風に進めていくか、市の皆さんも考えてみてほしい。

【2 田園を守る】

◎地域「核」の形成

(委員)

地域の核となるリーダーについて、退職者が集落営農の代表となって、ある程度上手くいった。退職したり、家で時間を持って余していたりする人達が、農業で生産する喜びのもと皆で協力してやっている。

(事務局)

国や県・市の制度継続について、農地・水の事業は多面的支払で改めて始まっており、市もそれを補完させていくという意味で色々な制度がある。新たなものを想定しながら補完していきたいと考えている。

中山間・荒廃農地・鳥獣害対策というのは手厚い補助等が必要となる。市独自の補助制度を継続し行っている。改善すべき点は見直して進めていきたい。

(委員長)

制度については、互いに勉強し、詳細に納得していく作業が必要。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

協 議 事 項 等

(委員)

私は小倉地域に住んでいるが、最近では果樹ではなくソバ畑になっていく傾向がある。小倉地域をリンゴ地域にしていくのなら、ソバではなく、リンゴ畑として果樹産地を残していく、そういう努力を市でやらないといけない。

(事務局)

まさにその通りと感じている。今までは、荒らしておくよりもソバでも作った方がよいという形で、ソバ栽培へ流動化していったという経過がある。今後は「人・農地プラン」において、地域の話し合いによって決めていくスタイルが、特に果樹地帯には必要ではないか。

(委員)

遊休荒廃地を開墾すると助成金が交付されるという話があるが、農家はどこが遊休荒廃地なのか見当がつかない。農業者にわかる体制をとってほしい。

(事務局)

それについては、個々相談にのりたい。個人情報をお伝えすることはできない。

(委員)

農地を集積して大規模でやっている中間管理機構という大きな流れがあって、その流れに乗りきれない外れた中山間地域等については、特区的なモデル事業のような考えを基にし、石積み水路やピオトープを入れて安曇野の自然をアピールし誘致していく形を、農地・水の制度等を活用しながら提案してみたいのでは。

(委員長)

この委員会は計画を充実していくという役目もあった。我々の方から問題提起もできるのではないかと思う。明科地域で取り組んでいる荒廃農地対策について説明してもらいたい。

(委員)

市には400～500町歩の遊休荒廃農地がある中で、その6～7割が明科地域に存在している。明科で、押野の天王原(てんのうばら)に15町歩くらいの桑畑が放棄されてしまった所がある。我々、農業委員もそこを荒廃農地として認定して取り組み、現在65aほど再生した。追加で約3haをブドウ園・ワイナリーを定植していくという段取りである。

今後は、規模が大きくなると、何千万というお金が動き、また治山治水問題等もあり、総合的に考えてないといけない。明科の場合は地権者と10年間の使用貸借の中で、荒廃農地対策を行うというのが条件。最終的に、新たに取組まれる方々に対しての道を開くことになる。

(委員長)

着々と進んで成果があるというのは励ましになる。行動する農業委員会ということは、今の時代、大いに意味があり、事実を述べることは大事な事。この計画推進の中でも、一つの成果として捉えてもいいのではないかと思う。もっと成果を上げていただきたい。

(委員)

安曇野市の荒廃農地対策は頭の痛い問題で、しかも、後継者もなく、高齢化が進んでいる。このことは市をあげて対応策を実践していかななくてはならない。

「守る」の中で、これからは女性の時代であり、第二種兼業が圧倒的なところで、どうしても女性の力が必要。北穂高の丸山生産組合長さんも、150町歩～200町歩の農地の運用をされている。ぜひ女性を中心にして、女性が働く場所、あるいは農業にいそむ力を養うような体制・機構作りをお願いしたい。

「稼ぐ」の中で、ブランド化と、販売促進の問題、これが重要な論点になる。市場調査をして、姉妹提携をした都市でないところで売り込みや、セールスをする事が、販路拡大、あるいはビジネスチャンスになる。

(委員)

やはり「稼ぐ」事が一番で、自ら売って出ていく事をしないと生き残っていけない。主食米は減らされていくだろうという事があり、現在4割は酒米を作っている。このように分散し、一つのほ場から2～3回は収益を上げていく気持ちがなければ、経営的には難しい。規模拡大ができ、また地域の環境を守っていけたらと考えている。皆でこの「安曇野ブランド」を考えなくてはならない。

安曇野市はコシヒカリに依存しすぎている。高温障害に耐える風さやかさを、安曇野市としての一つのブランドとしてやっていく。特に大規模農家は、早生から晩生までと、多くの消費者ニーズに合ったものを作って売らないと難しい。

【3 安曇野に生きる】

◎農のある暮らし充実

(委員)

市民農園を拡充すべきである。

(事務局)

市民農園の拡充について、現在、仮称「市民農園開設事務取扱要領」を整備している。これを整備した上で、市民農園の開設・拡充に取り組んでいきたい。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

協 議 事 項 等

(委員)

物産センターにおける苗の注文を、会員制にしたらどうか。

(事務局)

苗の会員制注文について、多くのお客様に購入してもらいたい、という物産センター側の考えもあったため、会員制注文という制度でなく、早朝から並んだ方々に苗を購入していただくという形をとっている。

(委員)

食農教育の行事の継続性が大事である。

(事務局)

食農教育について、市の担当部局と話をしながら、年1回ではなく年間を通した行事として位置づけができないかという事で話をしていきたい。

◎環境資源の保全・活用

(委員)

冬水田んぼ適用のための、水利権を確立すべきである。

(事務局)

冬水田んぼにおける水利権の確立について、冬水たんぼ検証事業の課題は2つあり、一つは、農家さんが取り組んでメリットがあるかどうか、もう一つは、ご意見にある水利権の問題である。

農家さんのメリットについて、食味が76.0ポイントで上がったという評価であった。収量について、2年間、今までとあまり変わらないという状況だったが、3年目は下回ってしまった。減収となった直接の原因は見当たらないという報告である。まとめると、3年間の検証結果ではメリットはないといった状況であった。

また、水利権問題について、農繁期の4月～9月末までが農業用水として使用が認められているが、10月～3月までは維持管理用水なので、農業用水として使ってはいけないという事である。

◎環境問題への対処

(委員)

畜産臭気におけるスラリーインジェクターの効果はどうなのか。下水道整備が必要なのではないか。

(事務局)

悪臭対策のスラリーインジェクターについて、これは効果があり、においはほとんど出なかった。平成22年の「スラリーインジェクターの糞尿サンプル土壌環境調査」という報告書の中に「スラリーインジェクターを使う・使わないで、おおまじめに言ってしまうと、使わない方が自然に負荷がかかる」とある。

下水道の整備について、費用がかかってしまい、畜産農業の経営として成り立つかどうかという問題がある。

【全体を通して】

(委員)

推進委員会のもち方として、現状の課題がより把握できるような工夫がほしい。

(事務局)

推進委員会の今後の運営面について、ご意見を参考に検討させていただきたい。

(委員)

ありきたりの生活、身近な農業としての取り組みが不足している。

(事務局)

計画の第3章「安曇野に生きる」という中で「食べて生きて喜びを語る、そんなありきたりの生活」について反映している。今後、どこに問題があるのかという部分を検証しながら、計画理念をしっかりと施策に反映していく。

(委員)

事前意見以外で、農業後継者の確保・育成で、若い世代の農業者が「夏秋(かしゅう)イチゴ」を栽培し、生産量も増え、農協出荷が売り上げ1億円を突破した。農協さんの方で研修施設を建てる、ハウスを作っていくという話を聞いている。ぜひ市も協力していただき、農協とタイアップしてやってもらいたい。指導者の部分でどうなっているのか。

(委員)

夏秋イチゴの栽培について、農協の子会社に、「あづみアグリサービス」という有限会社がある。本年度中にハウスの施設を取得して、来春から栽培を始めていこうと考え、就農者2名ほどを公募して採用していこうという状況である。指導については、農協の部会に指導員がいる。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

(委員)

全体を通して、大規模農家とか、大きなお金が動くという事で方向性はいいと思うが、小さい農家がやっていける部分も、支援していただきたい。

また、荒廃農地で有機JASは大変作りやすい。住み分けも考え、そういう地域は安心・安全な作物ができる地域ということで安曇野市のブランドとして謳えるのではないかな。

職農教育について、先日中学校へ行って説明をさせてもらった。子ども達は皆さんが思っているほど関心がないわけではない。難しそう、大変そうというイメージを持っている。イメージだけでなく、体験してもらうことが大事になる。

(委員長)

地域の核の課題として、事例報告をする。松本新興塾の資料に「田んぼフェスタ」ということで写真があるが、これは農家の側から生産地となる田んぼに市民の親子を招いて、そこで体験を行う。

(委員)

ターゲットは園児、小学校低学年の子どもで、田んぼでの収穫体験、稲刈り、ハゼがけ作業、脱穀作業、籾摺り作業、精米作業をやってもらった。また、農機具の乗車体験とか、農家さんが作った農産物の販売会なども行った。一番のメインは、籾摺り体験等を目当てとして来てくれたのではないかな。今年は新たに飯ごう炊さんの体験を考えている。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。